

クズウコン科植物の切葉としての特性評価

[平成 17～18 年度]

菊池知古^a・伊藤米人^a・金川利夫

(島しょ農林水産総合センター八丈)^a現農林総合研究センター

【要 約】切葉生産の新品目として、クズウコン科 6 種の収量、品質、日持ちなどについての季節変動を明らかにした。種類により収穫量とサイズの年間変動が異なった。日持ちが良好であり、価格の不安定要因はあるが市場評価も高いことから切葉として有望である。

【目 的】

八丈島でカラテア等のクズウコン科植物は鉢物として栽培されてきたが、八丈島と青ヶ島で切葉としての出荷が検討され始めていた。しかし属や種の違いによる季節ごとの収量や、出荷後の日持ちに関して検討されていないため、導入や販売戦略上のネックとなっている。本試験では、八丈島の無加温ビニルハウス内で維持されてきた種の中から観賞用に適したクズウコン科植物を選定し、収量および出荷後の品質保持日数を明らかにする。

【成果の概要】

クズウコン科植物の 6 種(図 1)を、5 月上旬に株分けし、畝幅 90cm、株間 30cm×条間 20cm で定植した。今回のデータはその年の 7 月から翌年 6 月まで調査した結果である。

1) 月ごとのサイズ別収穫枚数 (図 2)

7 月および 1～3 月はすべての種類で収穫枚数が極めて少なく、2 月は収穫できなかった。クズウコン科植物は高温を好む植物であるため、低温期には生育が落ちるが、収量と収穫葉サイズの年次変動には種によって差があった。

- ① オッペンハイミアナは、8 月から 10 月と 4 月から 6 月が収穫枚数は多く、収穫サイズの割合が比較的一定であった。
- ② ルイーザエは、9、10 月に株あたり 10 枚以上収穫でき、特に 10 月から大きなサイズがとれ始めた。
- ③ ‘フミリオ’は、定植後 5 ヶ月経過した 10 月から大きなサイズが増加した。
- ④ メディオピクタは、9 月から大きいサイズが取れ始めたが同時に開花期に入り 11 月以降の収量が激減した。6 月に開花期に入り開花した株は全て収穫した。
- ⑤ ‘グレー・スター’は、年間をとおして比較的収量が安定し、10 月から大きなサイズが増加した。
- ⑥ ‘グリーン’は、年間を通して比較的収量が一定であったが、高芽切りのため収量は少なかった。多い月でも株あたり 0.7 枚であった。

2) 出荷後の日持ち (図 3)

- ① ‘グリーン’、グレー・スター以外は、鑑賞に耐えられる品質を 1 週間保持した。
- ② 品質低下の状況は、オッペンハイミアナとメディオピクタは黄化、ルイーザエ、‘グレー・スター’および‘グリーン’は葉縁部の巻き上がり、‘フミリオ’は冷涼期の日持ちは良好であるが温暖期での黄化が顕著であった。

3) 市場評価 (図 4)

- ① オッペンハイミアナ, ルイーザエ, メディオピクタは同じ価格であった。
 - ② グレー・スターの大きいサイズが最も高い価格であった。
 - ③ 一般に, サイズが大きい方が高い傾向にあった。
- 4) 以上の結果から, クズウコン科植物は価格の不安定要因はあるが, 栽培・収穫調整が容易であること, 収穫物が軽いため輸送コストが抑えられること, 日持ちが良好であることから, 切葉として有望であることが示された。

【成果の活用・留意点】

- 1) 栽培に当たっては, 害虫による食害を受けやすいので薬剤散布が必要である。

【具体的データ】



クナンテ オッペンハイミアナ



カラテア ルイーザエ



カラテア ゼブリナ 'フミリオ'



カラテア メディオピクタ



クナンテ cv. 'グレー・スター'



クナンテ リュベルシアナ 'グリーン'

図1 供試したクズウコン科植物

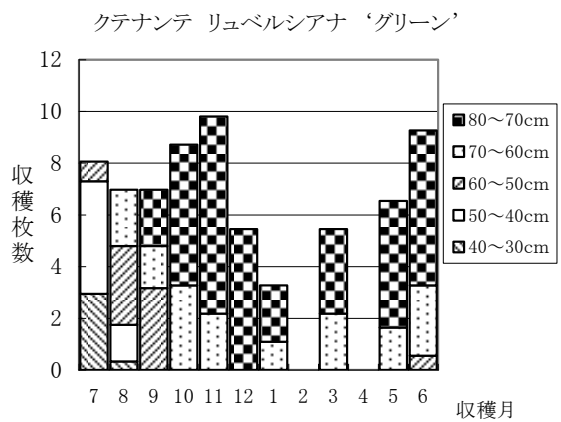
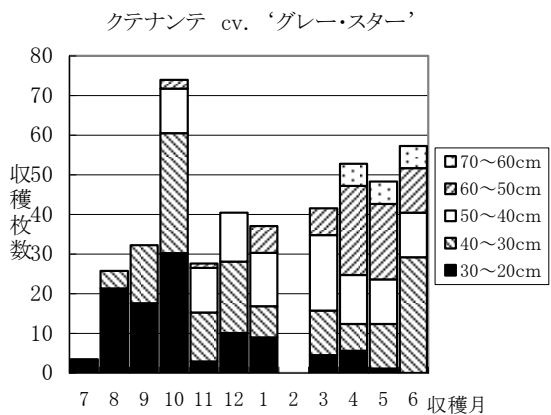
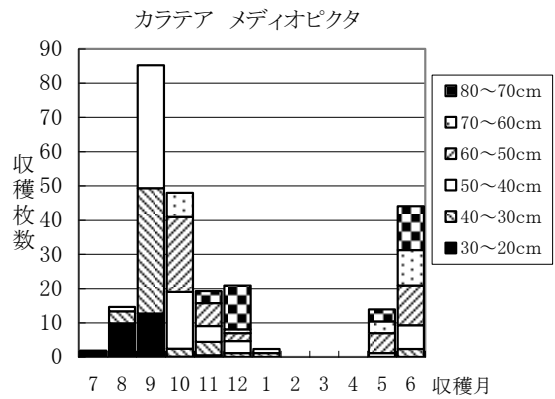
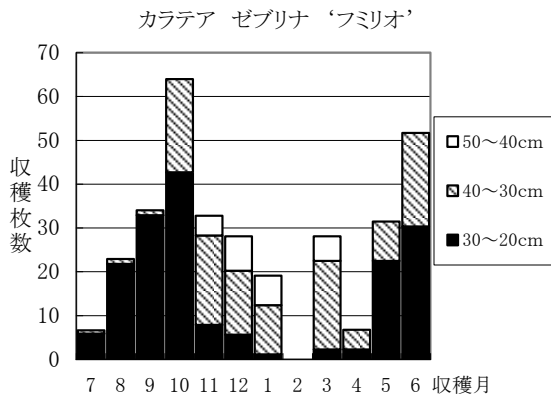
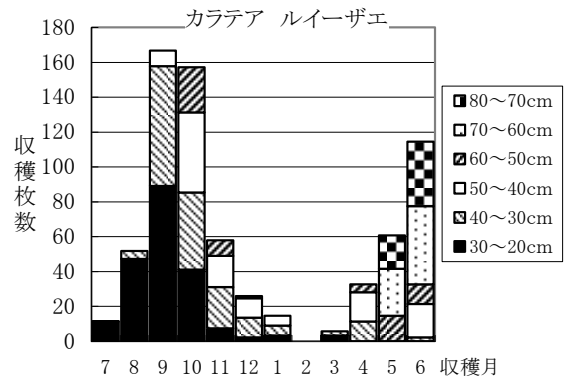
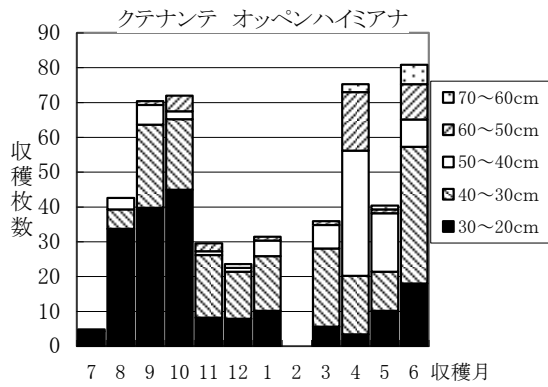
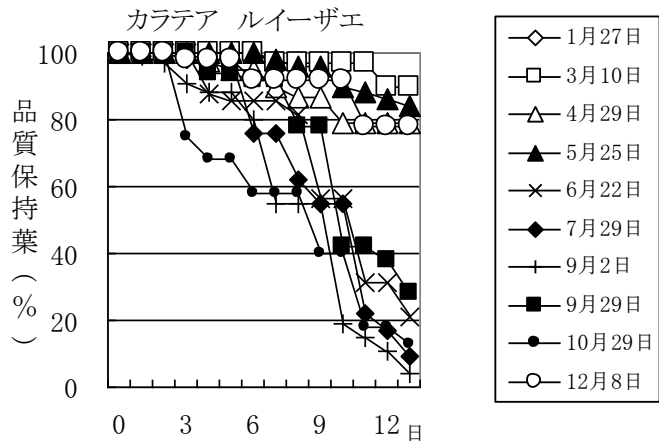
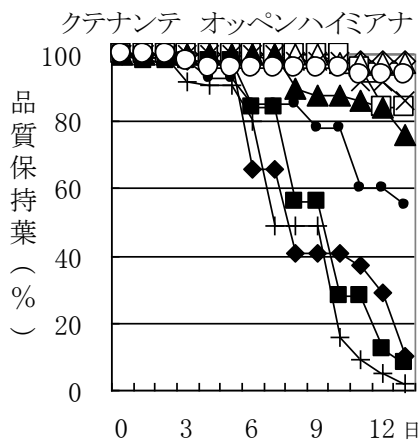


図2 月ごとの単位面積あたりサイズ別収穫枚数 (単位: 枚/m²)



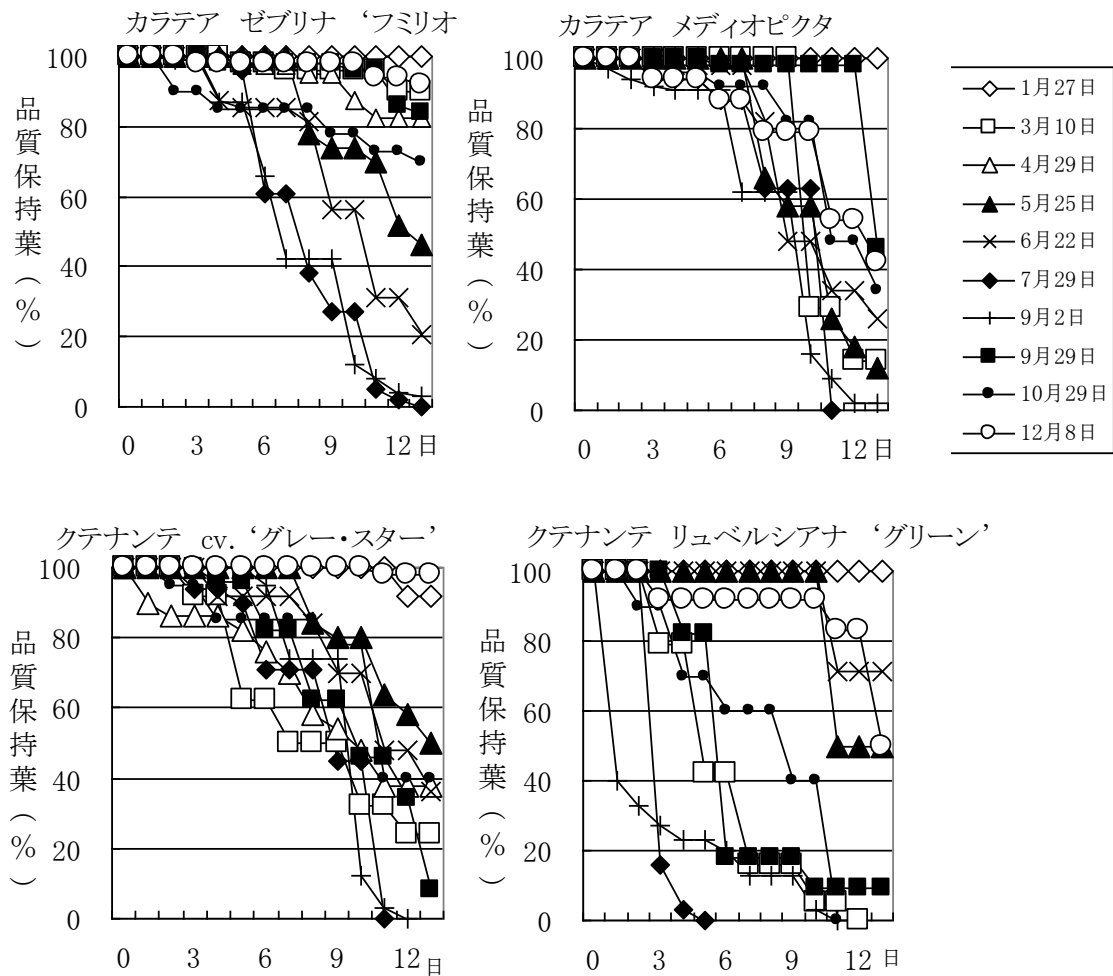


図3 収穫時期別の切葉品質保持日数

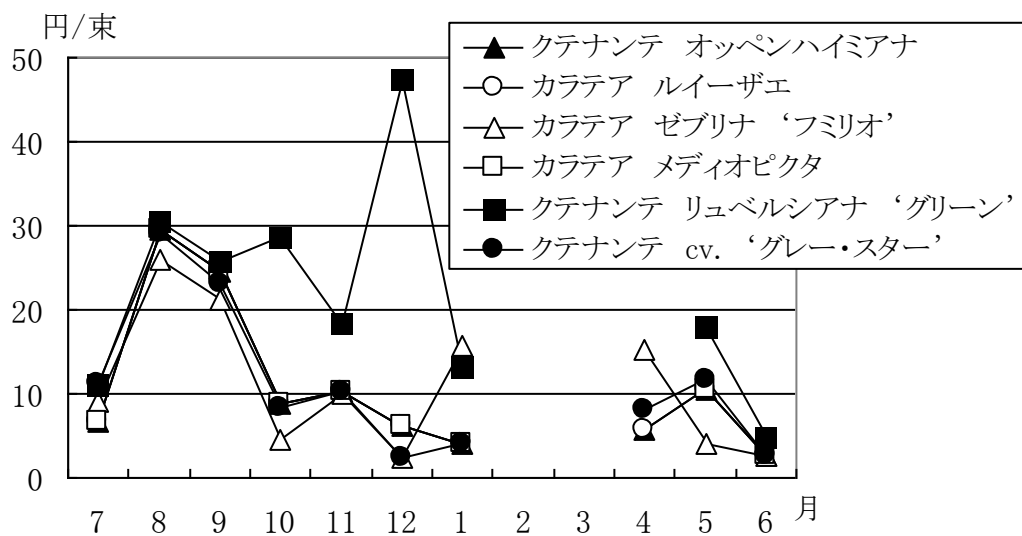


図4 加重平均価格の推移